



## 本年も当山護持によりしくお願いいたします

気づけば年が明けてからすでに一か月が過ぎようとしています。新年のご挨拶が遅くなりましたが、本年も時宗掛馬山地蔵院満徳寺の護持にご協力よろしく願います。余談ですが、本日一月二五日は浄土宗の祖であります「法然上人」の命日であります。浄土宗系の一つである時宗にとっても、念佛の教えを説かれた法然上人は重要な存在であります。今一度、お念仏のありがたみを感じてください。

さて、青山学院大学の総合優勝で幕を閉じた今年の箱根駅伝。茨城県の筑波大学の出場も大変うれしいことでした。伝。本山である遊行寺は復路八区で「心臓破りの坂」と言われる「遊行寺の坂」が目の前になります。ランナーが通る前後は参拝客が長蛇の列をなします。しかしながら、ヘリコプターから映る映像は、皆治道に出た後ですので参拝客のいない本山になっています。

余計な話をしてしまいましたが、私は約一〇年、ほぼ毎年お正月に本山でお線香の授与をさせて頂いております。ほかのお寺や神社でもそうですが、なぜ参拝前にお線香を供えるのでしょうか。

今号では同じ意味のお焼香についても交えてお話をしたいと思っています。

### 頭がよくなりますように…

お参りの前にお線香を供えて「頭がよくなりますように」

や「腰痛が治りますように」とみなさん一生懸命にお線香の煙をこすりつけています。それが間違いかと問われればはっきり間違っているとは言えません。お線香の煙を腰にあてたから腰痛が治るかとは聞かれれば、それもわかりません。つまり、お線香の煙自体には、何かを叶える力があるわけでないのです。

### お風呂と同じ？

では、一体このお線香にはどのような意味があるのでしょうか。これはお仏壇に供えるお線香や、お焼香でも同じ意味になります。

みなさんも清潔を保つためにお風呂に入られるかと思えます。人と会う前はシャワーを浴びるという人もいるかもしれません。それは、体の汚れをきれいにしてから人に会いたいと思うからでしょう。

われわれ凡夫は、生活をしていく中で様々な穢れや邪念が体についています。

そこでお線香やお焼香の煙によって、身に付いた汚れを净めてからお参りをしようということなのです。

つまり、お線香を供えることや、お焼香をすることだけでは供養や、祈願にはならないのです。清めた後に何をするかが重要なのですね。

### 回数や本数は？

よく、「お焼香は何回したらいいの？」や「お線香は何本供えたらいいの？」と聞かれます。宗派によっては決まっているところもございますが、当山においては特別回数を決めています。

お通夜、お葬式などでは、参列者の人数によって「一回焼香でお願いします」と言われることもあります。その時々

によって、決まりがある場合はそれに従いましょう。

本数ではなく、その後の行動が大切です。基本的に回向の文句や祈願の文句を述べる前にお焼香はしていただきます。それは清めてからご供養をしたいからです。お焼香をして、お線香を供えて満足ではなく、最後まで参列して回向をするようにしてください。

### 坊さんが医者？

話は変わりますが、「病室で念仏を唱えないでください」というドラマが現在放送されています。僧侶でありながら医者である人が描かれています。時宗が発行している「遊行」にもドクターミネこと峯崎師のコラムが載っていますね。

第一話の放送では「ありがとう」という言葉について取り上げられていました。普段使う「ありがとう」という言葉は「有り難し」という仏教語が由来となっております。この話は副住職がよく話す内容なので詳しくは述べません。気になるかたは副住職までお願いします。

さて、少し前に「筆談ホステス」として話題になった斉藤里恵さんをご存知でしょうか。その方の言葉の中に「難題の無い人生は無難な人生。難題のある人生は有難い人生。」という言葉がございます。

われわれ人間はどうしても楽な方へと意識が向いてしまします。他人と比較して「なんで私だけ」と思うこともあるでしょう。

しかし、「盲亀浮木」というたとえがあるように、われわれがこうして生まれてくることはとても難しいことなのです。いま生きていることに感謝しましょう。

然るに人天善所には 生をうることも有りかたし

常に三途の悪道を 橋としてのミ出やらす

南無阿弥陀佛